

TISFDベータ版を読み解く

～ 実務・市場・今後の方向性を考える ～

開催日時： 2026年7月3日（金）14:00～
会場： 日本生命 日比谷ビル7階+オンライン配信

現在、TISFDではβ版（Beta v0.1）に関するパブリックコンサルテーションが進められており、本イベントは、その期間中に日本市場としての視点や実務的示唆を整理し、国際的な議論へとつなげていくことを目的とした対話イベントです。

β版は、Conceptual Foundations、Disclosure Recommendations、Areas for Further Development の3つの主要セクションで構成されています。当日は、この構成に沿って3つのパネルディスカッションを実施し、①提言内容は実際の企業経営や開示実務において導入・運用可能なのか、②どのような曖昧さや課題が残されているのか、③今後どの論点を優先的に深掘りしていくべきなのか、といったテーマについて、率直な意見交換を行います。日本市場ならではの具体的な知見や課題意識を持ち寄り、TISFDの今後の発展に向けた建設的な対話の場となることを目指します。

特別講演

14:05-14:30

オンライン登壇
（質疑応答含む）

The Future of Business Depends on Social Resilience *TISFD as a Common Language Toward the Post-SDGs Era*

Peter Bakker

President & CEO, WBCSD; Co-Chair, TISFD Steering Committee

ESGを巡る逆風の中でも、企業の長期的レジリエンスと競争力の観点から「人」と「社会」の課題に向き合う重要性、そしてTISFDがポストSDGs時代に向けた共通言語となる可能性について講演いただく予定です。



導入講演

14:30-14:45

ビデオメッセージ

The TISFD Framework

Recommendations for disclosure of people-related information by businesses and financial institutions
Beta version 0.1

Simon Rawson

Executive Director, TISFD

β版の主要3セクションについて概要を説明いただく予定です。



パネル1

14:45-15:25

β版の考え方は日本市場に根付くか

TISFD β版のSection 3では、human rights、well-being、human and social capital、inequality、impacts / dependencies、system-level riskなど、従来のサステナビリティ開示よりも広範かつ構造的な概念が提示されています。

本パネルでは、こうした概念基礎（Conceptual Foundations）が、日本企業・金融機関、投資家の実務や市場環境の中で、どのように理解され得るのかを議論します。

特に、「不平等」や「well-being」といった概念を、単なる理念や社会課題としてではなく、経営・投資・リスク管理・長期的価値創造とどのように結び付けて捉えるべきかを検討します。また、impacts / dependencies や system-level risk といった新しい視点が、日本市場においてどのような意味を持ち得るのかについても、多様な立場から意見を交わします。

<パネリスト>

石川 善樹（Well-being For Planet Earth 代表理事）

今田 克司（社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（SIMI）代表理事）

山本 高嗣（QUICK ESG研究所 プロフェッショナルESGコンサルタント）

<モデレーター>

佐藤 暁子（国連開発計画 ビジネスと人権プロジェクトリエゾンオフィサー、弁護士）

休憩（15:25～15:40）

TISFDベータ版を読み解く ～ 実務・市場・今後の方向性を考える ～

開催日時： 2026年7月3日（金）14:00～

会場： 日本生命 日比谷ビル7階＋オンライン配信

パネル2 企業・金融機関は何をどこまで開示できるのか

15:40-16:30

TISFD β版のSection 4では、Governance、Strategy、Impact & Risk Management、Metrics & Targetsの4本柱を軸に、企業・金融機関に対する disclosure recommendations が提示されています。本パネルでは、これらの開示提案が日本企業・金融機関の実務において、どこまで実装可能なのかを、多様な立場から検討します。

特に、IDROやmateriality assessmentの実務運用、データ整備や指標設定、既存開示との接続、reporting burden（開示負担）、さらにはISSB・TNFD等との interoperability（相互運用性）といった論点を取り上げ、現場で想定される課題や ambiguity（解釈の幅）を具体的に議論します。

また、単なる「開示負担」の議論にとどまらず、企業・金融機関にとって実際に意味のある開示とは何か、市場との対話や経営判断にどのようにつながり得るのかについても考察します。

<パネリスト>

阿由葉 真司（三井住友トラスト・アセット・マネジメント スチュワード・シップ 推進部 シニア・スチュワード・シップ・オフィサー）
大塚 友美（トヨタ自動車 サステナビリティ推進担当統括部長）
大槻 櫻子（KPMGあずさ監査法人 代表取締役）
中久保 菜穂（シェルパ・アンド・カンパニー 取締役 CSuO）

<モデレーター>

木村 武（日本生命 常務執行役員、TISFD Steering Committeeメンバー、PRI理事）

パネル3 TISFDは次版に向けて何を深掘りすべきか

16:30-17:10

TISFD β版では、多くの重要な論点や提言が提示される一方で、Section 5では、materiality、system-level risk、metrics、scenario analysis、さらには市場実装のあり方など、今後更に議論と検討を深めていくべき課題が整理・提示されています。

本パネルでは、識者それぞれの視点から、今後、どの論点を優先的に深掘りすべきか、また市場実務としてどのような形で定着していくことが望ましいのかを議論します。

さらに、単なる概念整理にとどまらず、market usability（市場での使いやすさ）や実装可能性も踏まえながら、TISFD次版に向けた期待や課題を整理し、パブリックコンサルテーション期間中の日本市場からのフィードバックにつなげることを目指します。

<パネリスト>

名越 正貴（EY Japan 気候変動・サステナビリティサービス、プリンシパル）
増田 典生（日立製作所 グローバルサステナビリティ本部 主管、ESG情報開示研究会 共同代表理事）
皆越 まどか（野村アセットマネジメント 責任投資調査部 シニアESGスペシャリスト）

<モデレーター>

スズキ トモ（早稲田大学 商学学術院 教授、オックスフォード大学博士）

質疑応答

17:10-17:30

ネットワーキング

17:30-

- 参加申込〆切：2026年6月26日（金）、参加費無料
- 開催方式やプログラムは予告なく変更することがございます。
- 連絡先：日本生命 責任投融資推進室 岩田（03-5533-1105 / iwata58281@nissay.co.jp）
- （※公開後にベータ版掲載リンク挿入※）



日本生命保険相互会社

2026-505G, 責任投融資推進室